

初めての報恩講

報恩講とは

報恩講とは、一言でいえば、親鸞

さまの「法事のこと」です。真宗の最

重要行事であり、七〇〇年以上に

わたり大切にされ、伝えられてき

ました。しかし、核家族化のせい

でしょうか、両親はあんなに大事に

されていたのに、次の世代になると

その日は都合が悪いという方

ご都合の悪い方は、別の日時にお参りさせていただきますので、ご遠慮なく「一報下さい」。また逆に、時間がないので、コース表通りの時間でなければ困ると言う方も、「ご遠慮なくお寺まで」「一報下さい」。

ご理解とご協力を

「順番は分かるが、大体の時間が分からないものか」という声にお応えして、「朝八時から始まって一軒三〇分を目安に廻ります」とお知らせしました。すると今度は「もう来たのか」とか「まだ来ない」ということになって、逆に混乱の原因にもなってしまう。急な変更が重なったり、ご門徒が亡くなられたりすると、すぐに一〜二時間は前後してしまいます。どうか前後一〜二時間までは「ご容赦下さいませようお願いします」。



全く存じないという方が急増しは

じています。初めて耳にされた方

も、「どうか「温故知新」の精神で、先

達や先祖が大切に伝えてこられた

意味を学び、後にも確かに伝えてい

ただきますよう願っています。

報恩講は三つある

まず、ご門徒各家でつとめる

「通り報恩講」。西教寺では、例

年十月一日（今年は三日から）よ

りはじまります。一軒三〇分の目

安でまわり、ほとんどのご門徒が

つとめられます。

次に、全国の真宗各寺院では

「お取り越し報恩講」をつとめま

す。ご命日を年内に取り越し行

うのです。

そして、ご本山（西本願寺）で

は、一月十六の正当日の一週間前

より「ご正当（御正忌）報恩講」

がごとまります。本来は本山に参

詣すべきものです。しかし、本山

へ参詣できない人のために、ご法

義の厚い安芸地方では、各寺院で

もご正当の法座を行っておりま

す。

報恩講の心がまえ

それでは、どのような心構えで

報恩講をお迎えすればよいので

でしょうか。

親鸞さまによると、仏さまの教

えを聞き、心豊かに日々を送れる

ようになった人は、お育てに感謝

して、少しでも仏法が弘まるよ

う、また世の中が安穩になるよ

う、できることを「報謝」なさい

と言われています。どうぞご家

報恩講の準備は？

おみがき（お掃除）

めつきしていないしんちゅう製

の輪燈・おリン・仏飯器などは、

仏壇店などで売っているしんちゅう

磨きなどで磨きます。家族みん

なでおみが

きしましよ

う。



おかざり

へお花

まごころをお供えするのですから、造花は「法度」です。



へローソク

普段横着して電気のローソクだけの人も、この日は本物のお光りをともしましょう。新しいのを出しておいて下さい。できれば、朱（しよ）と灰皿をお忘れなく。

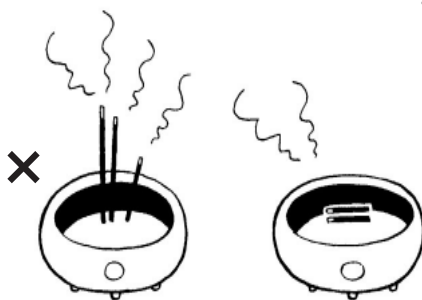


未安心の行者にいたりては（略）この砌において仏法の信・不信をあひたづねてこれを聴聞してまことの信心を決定すべくんば（蓮如上人『御俗姓』一三二二頁）

とあるように、納得するまで仏法を聞き、まことの智慧をたまわって新たな人生への機縁としましょう。

〈お香〉

できるだけ良い香りのものにし
ましよう。香炉は灰をならしてお
きましよう。マッチの燃えカスは
香炉ではなく灰皿に入れるもの
です。



線香は立てずにねかせます

〈お仏飯〉

これがなければ始まりません。
両脇掛け（親鸞さま・蓮如さま）
にもお忘れなく。



〈お供え物〉

日常つねにお供えするものはお仏
飯だけです（水・お茶・コー
ヒー・お酒・たばこ等はそなえま

せん）。また、頂き物をまず仏さ
まにお供えするうるわしい習慣を
大切にしましょう。



報恩講などの法要仏事の際は、

お餅やお菓子等を適宜お供えしま
す。お供えする順番は ①「餅」②

「菓子」③「果物」の順です。ま
た、お供えは、供筒（華足ともい
う）や高杯に盛りますが、この辺
で多い三方向が金濃（金色）、残
りの三方向が黒の供筒は、金が正
面に来るよう（黒が見えないよう
に）するものです。



このような感じで、黒いところが
見えているのは×

御文章

「出し忘れ」をしたり、「上下
逆」になっているのが御文章。お
持ちでない方は、お寺に相談下

さい。

ちなみにお花、仏具、法事の
「お仏前」なども含めて、お供え
物は皆同様の方向にを向けるのが
作法です。お供えは私の手柄では
なく、「おかげで」という心を表
しているそうです。



お焼香道具

香炉を乗せるお盆・抹茶を忘れ
ずに。



お念珠・お経の本

お念珠、お経の本を忘れずに。
また、これらは直接地べたに置き
ません。

おつとめ

お経はいつしよについてあげま
す。老眼鏡を忘れずに。一昨年か
ら、お正信傷も少しはゆつくりにな
ったと思いますので、できるだけ下
げ多く方を誘ってご縁にお会い下
さい。

真宗には必要ないもの

・お位牌（過去帳に書き換えま
しょう）



× 神棚・お札・お守り
破魔矢・他宗の本尊

歴史に学ぶ Ⅱ 神道非宗教論Ⅱ

親鸞さまの時代、権力者は、宗教
的な権威を利用しながら荘園支配を
していました。親鸞さまは、民衆
の立場に立ち、権力と結びついてい

た神（権力者）に対して、まことの
精神的自立、神抵不拝・国王不礼の
教えを説かれました。ところで、明
治になると、政府は仏教を廃して神
道を国教化しました。神と仏を分離
し（神仏分離令）、神社の統廃合を
進めて、その頂点に天皇を据え、そ
の宗教的権威を利用して政治をしよ
うとしたのです（神道国教化政
策）。大寺院を設置し、東京の増上
寺に各宗の長を集めて、本尊の代わ
りに幣を置き、水干直垂で拝礼をさ
せました。親鸞さまの教えの伝統の
ある浄土真宗は島地黙雷、赤松連城
らが中心となって抵抗運動を展開、
一旦は大教院の廃止にまでこぎつけ
ます。しかし政府は「神道は宗教で
はない、国民の道徳である（日本人
なら当たり前だ）」という「神道非
宗教論」に路線を変えました。結論
的に宗門はこの路線を受け入れ、戦
争に協力しました。戦後、神道指令
により、法的には政治が宗教を利用
したり特定の宗教教育は禁止されま
した。しかし最近の教科書には「日
本の伝統文化」として、また、自民
党改憲草案にも「社会的義礼の範囲
内」として「神道非宗教論」が再登
場し始めているのです（恐）。